

## Ⅳ. 当事者を円滑にリファー・誘導するために求められる、関係機関との連携・連絡調整

### (1) Ⅳ - 第1節：ネットワークの中の1人として

#### 〈ひとりの支援者としての心がけ〉

- ・社会資源を知る
- ・自分の所属する機関の機能・役割、やれること・やれないことを知る。
- ・他機関の機能・役割、やれること・やれないことを知る。

#### 〈連携の重要性を知る〉

- ・子供・若者の捉える課題は多様であり、1つの機関・分野で解決できないこともある。

#### 〈リスク管理〉

- ・当事者を守るため、また支援者自身を守るためにも、抱えこみすぎないことが大切である。

### (2) Ⅳ - 第2節：ネットワークの中の組織として

#### 〈組織としての心がけ〉

- ・多面的な角度から、当事者により良い支援を届ける。
- ・リスク管理のために、個別担当レベルから、組織レベル（関係機関同士）への連携へ発展させる。
- ・ケース会議の場において、支援方針を共有し、各機関の役割を明確にする。

#### 〈具体的な取り組み〉

- ・教育・医療・福祉等の専門機関や地域の社会資源を熟知する。
- ・連携のため、自機関の情報発信を行う。
- ・各機関のスキルアップのために、困難事例の検討会等を行う。

### (3) IV - 第3節：求められる地域づくり

#### 〈地域に対しての心がけ〉

- 早期発見、セーフティネットの役割
- 実際のケースに直面した際、スムーズに地域で連携できるよう、普段から体制づくりを心がける。
- 官民協働の意識  
地域住民として地域の課題を解決していく、という意識をもつ。

#### 〈具体的な取り組み〉

- 異業種交流  
地域で活躍する企業・専門機関等が勉強会を行う。
- 地域ネットワークへの入口  
地域で様々な情報発信の機会を設ける。(地域住民への一般講座、親の会、学校への広報等)
- 地域産業とのつながり  
地域産業を中心として、企業・各団体とのつながりを形成する。(社会資源の開拓、体験活動、中間的就労)

### (4) IV - 第4節：ネットワークの中の1人として個別事例における連携

#### 〈先ず、私達にできること〉

- 気がかりなこと、困ったことがあれば、自分から積極的に同僚や先輩、スーパーバイザーなどに相談する。
- 朝のミーティングなどの組織で当事者情報を共有し、ていねいに意識のすり合わせをする機会を持つ。
- ケース会議を積極的に開催し、その中で役割分担を明確にするなど。

## 昨年度の(平成 25 年度)研修課題と、本研修における改善の取組

昨年度は以下の課題が提示されていた。

1. 研修生間の継続した交流機会を確保すべきではないか
2. 実地研修でアウトリーチへの同行が実現できなかった場合、代替の学習機会を確保すべきではないか。

それぞれの課題について、今年度は以下の改善の取組を行った。

### 【1. 研修生間の継続した交流機会を確保すべきではないか】

多機関・多職種となる研修生間で、アウトリーチの技法や各地域の取組に関する情報を共有するため、SNS を活用した交流を促した。

また、継続した交流を図るために研修同期会を設け、同期会長等を依頼した（活動任意・無報酬）。今後の交流・情報共有等に期待したい。

### 【2. 実地研修でアウトリーチへの同行が実現できなかった場合、代替の学習機会を確保すべきではないか】

昨年度に引き続き、研修受入団体に対して、実地研修におけるアウトリーチ同行の実現や、代替の学習機会の確保について配慮いただくよう要請した。なお、今年度においては、当事者の心理的な状態を鑑みアウトリーチ同行を実施しなかった場合もあった。